

文学部

【採点基準】

(I) (配点：10点)

以下の2つのポイントに各5点。

- ①翻訳で原文から離れる
- ②意識をする

*①～②の各ポイントでの部分的な誤りや内容が不十分なもの、或いはつながりがおかしいもの、余計なことを付加したものなどは程度に応じて、各-1～-2点。なお、字数制限に違反したものは不可。

(II) (配点：20点)

In neither case has the translator felt confident enough to break away from the structures of the original / 8点

so as to write a clear piece of English prose / 6点

which, after all, is what the tourist needs. / 6点

- In neither case has the translator ... の否定倒置構文の不明は-8点。
- feel confident enough to do の不明は-4点。
- break away from ~ の不明は-2点。
- the structures of the original の不明は-2点。
- so as to do の不明は-6点。
- a clear piece of English prose の不明は-2点。
- which ... の関係代名詞構文の不明は-6点。
- after all の不明は-2点。
- what the tourist needs の不明は-2点。

*全体の構文の不明は-20点。その他の誤訳・訳抜けは各-1点。

(III) (配点：5点)

- 解答通り。

(IV) (配点：5点)

- 解答通り。

(V) (配点：20点)

It was not until I read this that / 8点
I considered the importance of literal translation / 4点

as a tool for people speaking a vernacular language to develop their own written version. / 8点

- It is not until ~ that ... 構文の不明は-8点。
- considered ~ as a tool 「道具としての～について考えた」をconsider A as B 「AをBと見なす」の構文と誤解したものは-8点。
- for people speaking a vernacular language の不明は-3点。
- to develop their own written version の不明は-3点。

*全体の構文の不明は-20点。その他の誤訳・訳抜けは各-1点。

(VI) (配点：10点)

以下の2つのポイントに各5点。

- ①文書の行間に書かれたメモ
- ②ラテン語の単語や成句の逐語訳

*①～②の各ポイントでの部分的な誤りや内容が不十分なもの、或いはつながりがおかしいもの、余計なことを付加したものなどは程度に応じて、各-1～-2点。なお、字数制限に違反したものは不可。

(VII) (配点：20点)

This suggests that / 5点
monks were by no means as skilled in Latin as might have been supposed. / 15点

- by no means の不明は-5点。
- as ~ as might have been supposed の不明は-10点。
- be skilled in ~ の不明は-5点。

*全体の構文の不明は-20点。その他の誤訳・訳抜けは各-1点。

(VIII) (配点：40点)

以下の5つのポイントに各8点。

- ①土着語の書き言葉を誕生させ、
- ②ドイツの大叙事詩や歌や謎かけや物語などの
- ③数世紀にわたって人々の間に広まっていた口承文学が、

- ④たとえ当時は文体的にラテン語にかなわなかったとしても、
- ⑤少なくともラテン語に対抗できる言語で記述されるようになった
- *①～⑤の各ポイントでの部分的な誤りや内容が不十分なもの、余計なことを付加したものなどは程度に応じて、各-1～-4点。なお、字数制限に違反したものは不可。

(IX) (配点：20点)

日本語の文法について話すための語彙を持っていない人／10点

に日本語を教えることは、困難であることを私は発見した。／10点

*誤訳・訳抜け・スペルミス・時制ミスなどは各-1点。文法・語法上の重大な誤りは各-2～-3点。なお、部分的には出来ていても英文として体をなしていないものは零点。

【概 評】

英語力+教養

慶大文学部の英語入試の特徴は、何と云っても、総語数が2,000語を上回るような英文が使われることである。2011～2013年度は長文読解が2題出題されていたが、2014年度から長文読解1題のみという従来の形式に戻っており、1つのテーマに関する非常に長い文章を集中力を切らさずに読み通す力が求められる。内容的にも高度な読解力を要するものが多く、「大体分かった」というレベルでは合格答案は書けないだろう。日頃から、様々な内容の英文に接すると同時に、様々な分野の知識・教養を深めることが最も有効な対策となる。

【設問別講評】

- (I) 内容説明問題。あまり出来は良くない。sense for senseの意味が分からなかったせいか、「逐語訳ではなく、感性に従って訳出すること」や「効果的に意味や感覚を伝える訳を作ること」といった類の答案が多かった。
- (II) 下線部和訳問題。In neither case has the translator felt ... の否定倒置構文が大きなポイントになっているが、これを「どちらの場合も、…自信を感じた」のように肯定的に訳出した結果、文意が逆になってしまい、大幅

に減点される答案が続出した。また、break away from the structures of the originalを「独自性の構造から逃げる」や「本来の意味の構造を壊す」、a clear piece of English proseを「英文の明らかな部分」や「明確な英文のひとつかけら」などとするものが目に付いた。

- (III) 語句空所補充問題。あまり出来は良くない。(a) humanism や (d) realism を選んだ諸君が多かった。初期のコンピューター翻訳では、言語使用の複雑な次元に対する考察が不十分だったという文意を読み取る必要がある。
- (IV) 主語把握問題。(ウ)や(エ)を選んだ諸君が相当数おり、予想外に不出来だった。確かに主語となる部分が入り組んだ構造をしている1文だが、もっと出来て欲しかった。
- (V) 下線部和訳問題。さすがに It is not until S V that ... 「Sが Vして初めて…」の構文を間違える諸君はほとんどいなかった。しかし、一方で、people speaking a vernacular language を「自国語を話す人々」、develop their own written version を「自分たちが書いた版を発達させる」とするような語句の訳出が不適切なものが目立った。本学部は辞書の持ち込みが認められているのだから、もっと辞書を活用して適切な訳語を案出してもらいたかった。
- (VI) 内容説明問題。「教科書の列と列の間に書かれたラテン語の注釈」といった答案が多かった。between the lines を「線と線の間」とする誤訳も多かった。これも辞書を使えば防げるミスである。
- (VII) 下線部和訳問題。文構造は単純なので個々の語句の訳出がポイントになるが、were by no means as skilled in Latin as might have been supposed を「予想されていた通りにラテン語が上手ではなかった」と逆の意味になってしまう訳を書いた答案が相当数あった。not as ~ as ... 「…ほど～ではない」の not が by no means に代わっただけなのだが…。また、This suggests that ... の suggest 「示唆する、示す」を「提案する、提言する」と訳す

諸君が少なくなかった。もっと文脈を考えてもらいたい。

(Ⅷ) 内容説明問題。実質的には第9段落の第2文の (Similarly, interlinear glossing in other European languages) gave rise to ... at that point in time を訳出すれば正答になる問題なのだが、この部分の訳出で躓く諸君が多く、出来は良くない。

(Ⅸ) 和文英訳問題。第5段落の第9文の I discovered the impossibility of explaining grammatical errors to a generation that has no vocabulary with which to talk about grammar を利用すればよいことに気づいた諸君は総じて良く出来ていた。本文中の表現を用いず I found it difficult to teach ... という訳し方をする答案も多かったが、基本的なミスを含むものも多く、英作力の差が如実に表れていた。grammar を grammer と書くスペルミスがかなりあったのはいただけない。

◆学習ノート

慶大文学部の英語の入試では例年、辞書の使用が認められている。下線部和訳問題や内容説明問題で正確を期すためにも、有効活用したいものである。ただし、設問のポイントとなる部分は、辞書に載っている訳語を当てはめるだけでは何を言っているのか分からないことも多い。日頃から、英文を読む際に文脈に応じて適切な日本語に訳出する一方で、その英文が何を言わんとしているのかをよく考えながら読む訓練を積んでもらいたい。